

※本年4月より専門外来が新設されました。

はじめに

岡山医療センターでは、2017年から院内標榜科として「神経小児科」を開設し、2020年から正式な院外標榜科として「小児神経内科」が仲間入りしました。小児神経・てんかん・代謝異常症などを専門とする小児科・新生児科のスタッフで構成されます。主にけいれん性疾患（熱性けいれん、てんかん）、中枢神経感染症（脳炎・脳症、髄膜炎）や脳性麻痺、発達の遅れなどがあるお子さんの診療をしています。小児の病気のなかで神経疾患の割合は高く、疾患の多様性・特殊性などから欧米ではかなり以前から専門化が進み独立した診療科となっ

ていますが、国内では一部の大学病院、小児病院、てんかんセンターなどに限られているのが現状です。当院小児神経内科では、国内でも数少ない小児神経学講座（岡山大学と鳥取大学のみ）のひとつである岡山大学小児神経科で臨床トレーニングを積んだ2名の「小児神経専門医」を中心に、岡山大学病院をはじめとする全国の専門施設や地域の療育施設とのネットワークを活かしながら急性期疾患からいわゆる難病まで幅広く診療に当たっています。

けいれん性疾患・てんかん

けいれん性疾患は小児では非常に多く、小児救急医療の代表的疾患でもあります。当科では年間1,000件以上の脳波検査を行うなど、小児神経専門医、てんかん専門医が中心となって診療に励んでいます。近年は新規抗てんかん薬が相次いで認可・発売されており、これまで難治であった患者さんがより良い生活を送れるようになることが期待されています。難治

てんかんについては、国内有数のてんかんセンターである「岡山大学病院てんかんセンター・小児神経科」と密に連携して診療を行っており、てんかん外科治療や迷走神経刺激療法などの高度専門治療にもスムーズに橋渡しできるように心がけています。

脳炎・脳症

緊急脳波検査、緊急MRI検査なども積極的に行い、脳炎・脳症の的確な診断と初期治療に努めております。脳圧モニタリングや低体温療法などの高度な集中治療管理が必要な場

合に備えて小児ICU治療の経験が豊富な「岡山大学病院EICU」との連携体制を構築しています。

先天代謝異常症

神経症状の原因として先天代謝異常症が隠れていることがあります。当科では、県内でも数少ない代謝異常症を専門とす

る小児科医が、基礎疾患の検索、専門的治療（薬物療法、酵素補充療法など）に関わっています。

新生児神経疾患

当院は総合周産期母子医療センターであるため、新生児神経疾患（低酸素性虚血性脳症、新生児発作、脳形成異常、先天性水頭症、神経筋疾患など）のお子さんたちもNICUに

多く入院します。このようなお子さんたちの急性期診療・集中治療にチームの一員として関わりつつ、退院後のフォローアップや治療も担当しています。

神経発達症・発達障害

自閉スペクトラム症(ASD)、注意欠如多動症(ADHD)、限局性学習症(学習障害)などの神経発達症(発達障害)については、2019年秋から小学生以上の年齢のお子さんを対象に外来を始めました。NICUを退院したお子さんたちの発達サポ

ートという役割も有しています。院内の言語聴覚士によるリハや、放課後等デイサービスと連携しながら家や学校での生活をサポートしています。小学生未満でも、就学直前でお急ぎの場合(幼稚園・保育園の年長さん)には外来で対応しています。



年中さん以下のお子さんの場合には、長期的な視点に立った療育へのスムーズな連携が重要になりますので、療育機能の

充実したクリニック・病院の受診をお勧めしています。

心身症

心身症については、国内の専門施設で研修を受けた「子ども

の心専門医」が外来で診療に当たっています(非常勤)。

教育・臨床研究

岡山大学小児神経科の協力施設として小児神経専門医研修の一翼を担っています。さらに小児神経内科を有する総合病院として、初期研修医や小児科専修医に対しても小児神経疾患や脳波、頭部画像検査に関する教育を積極的に行っています。

また、小児科、新生児科とともに、けいれんや発達に関する

臨床研究を行い日常の診療にフィードバックするよう心がけています。現在は主に早産児やSGA児、低酸素性虚血性脳症などのハイリスク児の長期発達予後(特に神経発達症)に関する研究や、早産児の頭部MRI画像解析などに取り組み、国際学会・全国学会での発表や英文論文・書籍などの出版などを積極的に行っています。

小児神経内科 外来スタッフ

小児科医師

井上 拓志(H14年卒) 小児科専門医・小児神経専門医・てんかん専門医・脳波専門医。難治てんかんを中心とした小児神経疾患の診療・研究をしてきました。病気の子どもたちが、できるだけ制限の少ない生活を手に入れて成人期を迎えることが私の診療の目標です。趣味は旅とスポーツ観戦(サッカー、ボクシング、格闘技)です。

新生児科医師

竹内 章人(H15年卒) 小児科専門医・小児神経専門医・周産期専門医(新生児)。岡山大学小児神経科の非常勤講師として大学で新生児神経学の学生教育にも携わっています。主に新生児神経疾患と神経発達症を担当しています。趣味はドラムで、わりと騒々しい音楽を好みます。

小児科レジデント

浦田奈生子(H25年卒) 小児科専門医。てんかん性疾患に興味をもっておりますが、神経疾患を幅広く学んでいきたいと思っています。趣味はお笑い鑑賞で、実際に劇場に行って鑑賞するのが楽しみです。

サポートドクター

小児科医長 古城真秀子 専門は先天代謝異常症です。

小児科非常勤医師 白神 浩史 専門は心身症です(子どものこころ専門医)。

